

主な記事

— Jiplatpat
機能改善のご紹介 3面
— 知財管理システムの特長と
担当者のやりがい 4面
— Torerumedia編集長
インタビュー 5面
— 発明コラム 6面
— 御食国から物申す 連載第18回 7面
— 防災体験レポート 8面

発明 KAWARA版

第29号

発行日 2023年9月13日

発行 株式会社発明通信社

<https://www.hatsumei.co.jp/>

東京 千代田区内神田1-12-2
大阪 大阪市北区東天満2-10-14
名古屋 刈谷市相生町2-29-1

TEL:03-5281-5511
TEL:06-6353-0324
TEL:0566-63-5588

発明通信社（以下、当社）が本年4月18日にリリースをした「HYPAT・DU」（ハイパットディーユー…以下、本サービス）について、開発の経緯なども含めてご説明します。

紙公報の内容を電子（デジタル）化した週及分のフルテキストのデータを作成し、平成10年から特許庁が構造化された法律情報データである整理標準化データの提供を開始するなど、1990年代には各種の情報が飛躍的に進化しました。

一方で、以前よりいくつかのお客様から、自社で収集した注目技術の情報、調査会社に依頼した特許調査の結果、特許事務所がまとめたくれた他社の権利に関する特許情報や自社の事業に関する特許情報など、いろいろな特許情報を保有しているが、それぞれが情報を集めたときに使った調査（検索）システムが異なっているため、それらの情報をまとめて管理できずに困っている、と伺っていたので、そのように様々なデータベースから出力した結果を一元管理できるのであれば、お客様にとって便利で使い勝手の良いシステムになるのではないかと考えました。

特許情報の内容についても、平成5年から公開特許公報が電子情報で発行されたことをきっかけに、当社では電子公報発行以前に発行された

また、ある部門ではA社のデータベースを使用し、別の部門ではB社データベースを使用しているというように、その部門毎の業務に最も適しているデータベースを使っているため、知財業務を管理する方は両方のデータベースに精通する必要がありますことや、それぞれの部門の担当者にとってはインタフェースの異なる他部門のデータベースが使い難くて困っている、というようなお話も伺っていたので、本サービスでは誰もが直感的に操作できるようなインタフェースがあった方が良いでしょう、とも考えていました。

その結果、従来の検索システムのように一覧上の番号で文献集合を管理していくのではなく、机上にファイルやドキュメントを広げて内容を確認していくような感覚に近く、初めての人もすぐに操作できるように「ダッシュボード」と呼ぶフィールド上に、「データセット」と呼ぶ各文献集合のアイコンを配置して、その「データセット」のアイコンを「メニュー（オペレーション）ボード」上にドラッグ&ドロップすることで、利用者が行いたい操作（動作）を選択するようにし、当社が収集して蓄積している特許データを閲覧して出力できるようにシステムを開発して

発明通信社 新サービス

HYPAT・DUへの誘い

開発に秘められた想い

発明通信社 みらい室

発明KAWARA版

みよう、となり、HYPAT・DUの企画開発が始まりました。

前述のとおり、従来の特許システムのようには形式のストラクチャー内にある集合番号を指定してコマンドを入力するのではなく、スマートホンと同様にアイコンの操作を主体とした文献集合の管理画面という独自のインタフェースを有する特許情報管理システムが完成しました。

実際の操作で使っているうちに管理するデータセットが多くなってきた場合には、画面左側の引出マークのアイコン上にデータセットをドラッグ&ドロップすると、ドキュメントファイル

をキャビネット（書架）に収納するよう、ダッシュボード上からアイコンを消すことができます。この収納したデータセットが必要な時には、データセット一覧を表示してからチェックボックスに印を付けて、データセット追加というアイコンのクリックで、キャビネットからファイルを取り出すように簡単にダッシュボー

ド上に復帰させられるため、その時々で優先順位の高い情報だけを表示可能になっており、画面周りを整理できます。

また、ファイル作成にはデータセットのアイコン同士を重ねる、「メニュー（オペレーション）ボード」ヘッドラッグ&ドロップするのと同じ動作が右クリックで選択できる、など細かい操作性にも気を配って開発しました。

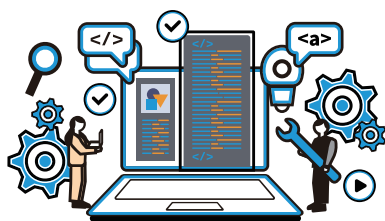
データセットの色分けは、そのデータセットが該当するカテゴリ別、例えば調査の種類（侵害予防・先行技術・無効資料など）や製品、技術分野、事業部門など、利用者の業務に合わせて管理しやすいようにしました。

特許調査を行う際は、製品の製造に関する資料や先行技術文献、審査書類の一部など、参照する資料が多々ありますが、それらをPC内のフォルダではなく、当該のデータセットの関連ファイルとしてシステム上に保管し、あるテーマ（案件）に必要な資料類をまとめて管理しておくことも可能です。

加えて、国内の特許情報以外にグローバルな特許情報の利用手段としてJapio世、特許情報全文検索サービス（Japio・GG/FX）のデータを取り込んで表示できる機能や、独立行政法人工業所有権情報・研修館（IPNPI）が提供している「国内移行データ一覧表」を利用してPCT日本語出願の国内移行状況を確認できる機能などを組み込みました。

最後にありますが、HYPAT・DUのDUとは「Data Utilizer（Utilize..活用する）」の頭文字であり、お客様にはもっと身近に特許情報（データ）を活用してほしいという私たちの願いから命名したものです。本サービスはリリースしたばかりであり、不足している機能や改善すべき点などが多くありますが、今後も開発を継続してより良いサービスを目指してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

AI（人工知能）を利用した機能としては、株式会社アイ・アール・ディー様にご協力をお願いしていて、予め登録している検索条件に該当した新着の特許情報を、Patent Noise Filter[®]へ通して、二値分類とその関連度を表すスコアを付与するという「AI・SDI」のシステム化を実現しています。



・特許のリーガルステータス表示機能・
CSV出力上限拡大
J-PlatPatの機能改善のご紹介
独立行政法人 工業所有権情報・研修館（INPIIT）
知財情報基盤センター 知財情報部

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）は、特許・実用新案、意匠、商標の出願情報や審査情報等をいつでも無料で検索・照会できるインターネットサービスです。

ユーザーの皆様からのご意見・ご要望を参考とした、以下2つの機能改善についてご紹介します。

○特許のリーガルステータス表示機能・絞り込み機能（2023年秋～冬実装予定）

リーガルステータスとは、特許等の出願の進捗状況や案件の権利状態（有効・消滅等の「生死」）等を示す情報です。このリーガルステータスが、国内案件に限り、特許・実用新案の検索結果一覧画面や文献表示画面で「ぱっと」参照できるようにになります（図）。

分類コードランキング			
検索PDFダウンロード			
印刷			
発明の名称 ▲	出願人/権利者	ステータス ▲	FI
光導形装置		特許 有効 登録公報の発行	B29C64/321 B29C64/129 B29C64/205 他
熱処理方法および熱処理装置		審査中 公開公報の発行	H01L21/26金T H01L21/26金G H01L21/265.602金B
半導体装置		審査中 拒絶理由通知	H01L21/90金B H01L27/06.102金A H01L27/088金E 他

図：検索結果一覧におけるリーガルステータスの表示イメージ

は、INPIITホームページのお知らせで周知予定ですので、ぜひチェックしてみてください。（ホーム）特許情報の提供）特許情報の提供お知らせ）

○CSV出力上限拡大（2023年3月実装済み）

J-PlatPatには、検索結果をCSV形式で出力する機能があり、出力後、表計算ソフトで加工し、ランキングやパテントマップを作成することで、出願トレンドの可視化等、入局的な特許情報分析に活用することもできます。

○このCSV形式での出力上限について、2023年3月に、500件から3000件に拡大されました（特許・実用新案だけでなく、意匠や商標も対象）。これにより、分析の母集団が大幅に増え、より詳細な特許情報分析が可能になりました。また、先述のリーガルステータスもCSV出力の対象データとなるため、案件のステータスも併せてリスト管理することも可能になります。

【その他お知らせ】

○CSV出力機能の使い方など、操作方法に関する動画を

公開しておりますので、ぜひご覧ください。※「JPP動画一覧」で検索するとヒットします。

○先述の機能改善は、ユーザーの皆様からのご意見・ご要望等を参考に実施されています。追加してほしい機能やJ-PlatPatの「ここをもっとこうしてほしい」といったご要望がありましたら、ぜひJ-PlatPat内で公開中のアンケートからご意見をお聞かせください。

新刊紹介

発明通信社が自信を持ってオススメする書籍の数々です。ご興味のある方は弊社営業担当までお知らせください！

【令和4年改正 知的財産権法文集 令和5年4月1日施行版】

政令や省令を省略して知的財産権に係る法律及び関連する一部条約を記載した法規集。

著者・発行 発明推進協会
価格 3000円（税込）
令和四年改正
知的財産権法文集
令和五年四月一日施行版
発明推進協会

【PCTの活用と実務 第3版】
PCTに係る最新のデータや規則改正、作成書類の具体例、実務のポイントなど、PCTを効果的に活用するための有益な情報をふんだんに盛り込み、手続の流れを分かりやすく解説。
著者 浅見節子／下道晶久
発行 発明推進協会
価格 3740円（税込）

【欧州特許庁審査便覧（日本語版）（2023年3月版）】
欧州特許条約・同施行規則に基づき欧州出願・欧州特許の審査の諸局面において採るべきプラクティス・手続に関する指針となる欧州特許出願時

業務に必携の一冊。
編集 EPO
翻訳・発行 AIPPI・JAPAN
定価 39930円（税込）

GUIDELINES FOR EXAMINATION IN THE EUROPEAN PATENT OFFICE
欧州特許庁審査便覧
AIPPI・JAPAN

【ボーデンハウゼン著 注解パリ条約】
パリ条約の沿革と主要な規定の概略を簡単に述べ、各条各項毎に注釈を加えた、条約の適用に関する主な問題を簡単に取り扱うことを目的とした一冊。
著者 ボーデンハウゼン
発行 AIPPI・JAPAN
定価 6600円（税込）

GUIDE TO THE PROTECTION OF INDUSTRIAL PROPERTY
PARIS CONVENTION FOR THE PROTECTION OF INDUSTRIAL PROPERTY
AIPPI・JAPAN



【2022 年における特許登録率 上位 30 社】

出願人	最終特許率 (%) (前置審査 審判段階含)	2021 年 特許出願件数 (参考として)	特許査定件数 (件) (前置審査 審判段階含)
1 フジテック株式会社	95.8	175	184
2 大和ハウス工業株式会社	95	205	192
3 井関農機株式会社	94.6	360	212
4 株式会社日立ハイテク	94.4	439	338
5 横浜ゴム株式会社	93.6	277	392
6 スズキ株式会社	93.5	381	360
7 日立建機株式会社	93.4	248	268
8 株式会社 SUBARU	93.2	699	463
9 ブラザー工業株式会社	92.8	1195	876
10 JFE スチール株式会社	92.1	1229	747
11 株式会社日立製作所	91	1538	1031
12 日産自動車株式会社	90.7	850	644
13 鹿島建設株式会社	90.5	232	228
14 KDDI 株式会社	90.1	524	491
15 エルジー エナジー ソリューション リミテッド [KR]	90.1	450	447
16 住友電装株式会社	89.7	873	471
17 日本電信電話株式会社	89.7	857	1231
18 株式会社オートネットワーク 技術研究所	89.7	544	305
19 日本製鉄株式会社	89.6	1138	1229
20 東芝三菱電機産業システム株式会社	89.5	181	197
21 株式会社ニューギン	89.4	525	693
22 日亜化学工業株式会社	89.4	447	405
23 TOYO TIRE 株式会社	89.3	267	291
24 株式会社クボタ	89.1	717	1043
25 インターナショナル・ビジネス・ マシーンス・コーポレーション [US]	89	468	332
26 株式会社 SCREEN ホールディングス	89	405	347
27 リンナイ株式会社	88.7	201	180
28 キヤノン株式会社	88.5	5434	3415
29 ルノー エス. ア. エス. [FR]	88.4	295	205
30 東京エレクトロン株式会社	88.3	1127	695

・特許行政年次報告書 2023 年版の 11. 特許登録率上位 200 社 (2022 年) の出願・審査関連情報 csv を利用。・特許出願件数: 2021 年の特許出願件数。・特許査定件数 (前置審査・審判段階含): 2022 年に審査段階及び審判段階において特許と判断された件数。
例: 2022 年の特許査定件数 (前置審査・審判段階含) = (2022 年の特許査定件数 (審査段階) + 2022 年の前置審査での特許査定件数 + 2022 年の審判請求成立審決件数 ※ 1) + 最終特許率 (前置審査・審判段階含) × 2022 年の特許査定件数 (審査段階) + 2022 年の前置審査での特許査定件数 + 前置審査において特許査定された件数。及び、拒絶査定不服審判請求後に特許になった件数 (審判請求成立審決件数) を反映させた特許率。
例: 2022 年の最終特許率 (前置審査・審判段階含) = (2022 年の特許査定件数 (審査段階) + 2022 年の前置審査での特許査定件数 + 2022 年の審判請求成立審決件数 ※ 2) / (2022 年の特許査定件数 (審査段階) + 2022 年の拒絶査定件数 + 2022 年の前置審査での特許査定件数 + 2022 年の前置審査での特許査定件数 + 2022 年の審判請求成立審決件数 ※ 2 + 2022 年の審判請求成立審決件数) の取下げ・放棄件数) / 2023 年 7 月データ取得 ※ 1 審判請求成立審決件数: 拒絶査定不服審判に関するもの。 ※ 2 審判請求成立審決件数と審判請求棄却件数: 拒絶査定不服審判に関するもの

特許管理システムの特長と 担当者のやりがい

発明通通信社
知財管理
サービスチーム

【システムの特長】

発明通通信社取り扱いサービスの 1 つ、「知財管理サービス I Peak MS[®]」(東芝デジタルソリューションズ株式会社 以下、本システム)の特長は、カスタマイズの容易性、情報共有の効率化、経過情報連携です。

○カスタマイズの容易性
画面に表示させる項目の名称を分かりやすいように変更、表示をテキストボックス

やドロップダウンなどお好みの形式に設定など、お客様の

お好みに合わせてカスタマイズが可能です。独自の管理項目も自由に追加・管理いただけますので、より使いやすいシステムを目指せます。また本システムのフォルダには検索式を登録可能なため、条件

に合致する案件を手軽に集められます。検索は画面上に配置している項目すべてが対象ですので、例えば、社内コー

○情報共有の効率化

知財の事務担当、技術担当、発明者や特許事務所との情報交換を効率化させることも可能です。例えば、3 カ月後に納付期限が来る複数案件の共有をする場合、先のフォルダの検索機能を使って 1 カ所に該当案件を集めておけば、本システムが、通知したいユーザに CSV データやログイン用 URL を自動でメール送信するので、権利維持の要否確

認が簡単に行えるとお客様に喜んでいただいております。また、発明者の所属部署が管轄している案件だけを画面上に表示させ、知財部が管理している項目は見せないように制限する、という設定をすれば、初めて知財管理システムを扱う発明者にも使いやすい、発明部門の項目入力もスムーズになります。

○経過情報連携

発明通通信社が提供する、HYPAT/API からのデータ連携サービスをお使いいただく、特許情報標準データ・米国特許商標庁データ・EPO が提供する

【担当者のやりがい】

知財管理サービスの導入時、お客様の多くに「この業務をなんとかしたい!」という希望があります。しかし、その「なんとか」は日頃の業務の中にあるため、ぼんやりと曖昧なことがほとんどです。ニーズを理解し、システム上に実装するためには、1 にヒアリング、2 にヒアリングと言っても過言ではありません。未だはつきりと見えていない本質的な課題を発見し具体化するために、発明通信社ではヒアリングを何度も繰り返します。

そうしてようやく課題を明確にした後、本格的に私たちの出番であるシステムの設計に移りますが、実はそこで頭を悩ませることも少なくありません。お客様の課題を解決し、ご希望に添えるようにするには、どのような設計にすれば良いかをチーム全体で検討します。場合により販売元や開発元に相談することになりますが、その度に新しい知識が増えていくのも自分の成長を感じられ、またアイデアが形になると、WEB 上でものづくりをしている楽しさを味わうことができます。

それぞれのお客様に最適化した知財管理サービスを導入していただくためには、お客様だけでも、私たちだけではできないと考えています。私たちは本システムの使い方・機能の専門家ではありませんが、お客様の業務については、お客様が 1 番詳しいた

取り込むことができ、データ入力の抜け防止、手入力のストレス軽減につながります。システムを導入いただいた後、ひと段落してから申し込みくださるお客様

が多いサービスです。



達成感を味わえ、また感謝や満足の声を直接いただけることが、私たちの最大のやりがいとなっています。

ません。お客様の課題を解決し、ご希望に添えるようにするには、どのような設計にすれば良いかをチーム全体で検討します。場合により販売元や開発元に相談することになりますが、その度に新しい知識が増えていくのも自分の成長を感じられ、またアイデアが形になると、WEB 上でものづくりをしている楽しさを味わうことができます。

知財の魅力が伝わる方法とは？

「知財を身近にするメディア」

Toreru Media 編集長インタビュー

知財について調べたいとき、知財の雑学を知りたいとき、皆様はどのようなサイトを利用されていますでしょうか？今回は数ある知財情報サイトの中でも、唯一無二の特長を持った「Toreru Media」(<https://toreru.jp/media/>)について、編集長でいらつしやいます土野様にインタビューをさせていただきました。

す。世の中に溢れているはずの知財が上手く活用されていない現状を打破できれば、その価値は最大化されるのではないか。そのような考えから「知財の価値を最大化させる」という株式会社Toreruのミッションが生まれ、特に知財への近寄りやすさを払拭するために「知財を身近にするメディア」というコンセプトを掲げてToreru Mediaを開始しました。

「Toreru Mediaの「知財を身近にするメディア」というコンセプトにはどのような思いが込められているのでしょうか？」

土野 アイデアが浮かぶ、ネーミングする等、いわゆる無形資産は日々の生活の中で意識せずとも生じているにも関わらず、それらが知的財産として意識されていなかったり、権利化されなかったりして、知財として認められていない状況を、私たちはとてももったいないと感じていま

す。統一感を出せるようになります。

最も悩んだのは記事集めでモーションはしていなかった。検索エンジンで上位に表示させられる記事（SEO対策記事）も運営には大切でしたが、そればかりだとビジネスライクなものになってしまふと思ひ、身近なテーマを取り上げた記事も同数投稿するように気を付けていました。その結果、多くの方にサイトのファンになっていただけたおかげで「コンテンツマーケティング・グランプリ2021」の専門コンテンツ部門を受賞できたのではないかと考えています。現在は、ありがたいことに多くのライターにご協力いただだけ、記事のバリエーションも増やすことができました。本当にライターの皆さまと感謝しています。

確かにToreru Mediaには実務から雑学的まで多彩なテーマの記事が投稿されています。テーマ選定の基準は設けられているのでしょうか？

土野 明確な基準を設けているわけではないのですが、強いて言えばメディア自体のコンセプトにあっているかどうか？という点でしょうか。例えば、良いテーマであっても、文章が硬すぎるとか、切り口がとつときにくすぐる場合、身近な形に変更してもらえようライターに依頼しています。知財そのものに興味がないと読まないようなものより、知財から少し離れてもいいから、一般的な感覚や知られている事実から入って、読者の皆さんに「あるある」「へー」と思ってもらえるこ

とを優先に、スパイス的に知財を散りばめています。ただ、身近な記事だけにすると「知財の専門分野」としての立ち位置が疎かになってしまい、他のサイトとの差別がつきづらくなってしまうので、いかにテーマが身近で本格的な知財か、バランスも見極めたいと思います。

また、ライター自身が熱をもって書けるかという点も大切にしています。いくらこちらが求める基準に合っているが求める基準に合っていない、ライター自身に興味がない、良い記事にならない。3年連載された「こちら葛飾区亀有公園前派出所」（集英社）の記事はその極みで、ライターの趣味で成り立っているのですが、知財に関するネタが多く、私自身も楽しみながら読んでいました。その熱意に読者の方が打たれる、いうことがあるのかもしれない。記事におけるこだわりのポイントを教えてください。

土野 そうですね。文字数を大まかにそろえる点と、硬すぎず、フランクすぎずのちょうどいい文体です。ある程度ライターの個性を

発揮してもらいつつ、サイトの雰囲気を出せることを目指しています。

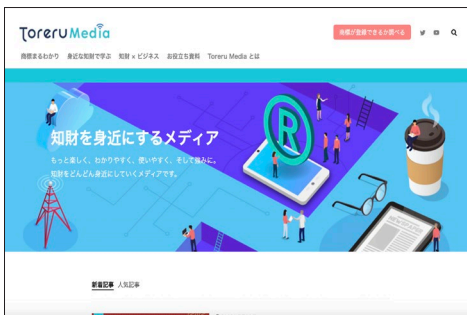
「これからますます拝読するのが楽しみです。今後の展望を教えてください。」

土野 記事が俗にいう「バズる」ことが滅多にない中でも、ここまでサイトを皆様を知っていただけなのは、毎週地道に記事を投稿したからだと思っていますので、引き続き継続していくことが1番です。新たな取り組みとしては、例えば、記事の冒頭などにその内容をまとめた動画を置くなど動的な要素を取り入れてみたいと考えています。

最後に、発明KAWARA版読者様へ一言お願いします。

土野 知財に携わる中で、大切さや面白さがなかなか伝わらない悔しさは、皆様共通で持っているのではないかなと思います。残念ながらすぐにその思いが報われることはないのですが、それぞれの場を力合わせて一緒に頑張りましょうとお伝えしたいです。

○土野史隆 株式会社Toreru Media 編集長
PARTNER 弁理士



「Toreru Media」のホームページのスクリーンショット。青いヘッダーには「Toreru Media」のロゴと「知財を身近にするメディア」のサブタイトルが記載されている。メインコンテンツには、知財に関する様々な記事が紹介されている。

「Toreru Media」のホームページのスクリーンショット。青いヘッダーには「Toreru Media」のロゴと「知財を身近にするメディア」のサブタイトルが記載されている。メインコンテンツには、知財に関する様々な記事が紹介されている。

発明コラム

ヘテランサーチャーが語る 特許調査の昔と今

ずっと変わらないもの

株式会社IP調査塾

特許情報活用コンサルタント

松尾健司



「特許情報の活用を自由自在に」をモットーに活動しているIP調査塾の松尾です。特許調査、パテントマップ作成、特許分析、アイデア創出コンサルティング等の業務を行いながら、平成の31年間を過ごしてきました。令和になってから独立起業して特許情報活用コンサルタントとして活動を開始しました。そんな私が、特許情報を検索して活用する作業を行うための環境の移り変わりなどの昔話をしながら、特許サーチャーの仕事の本質について考えてみたいと思います。

私が特許調査を始めた駆け出しサーチャーの頃には、使用することが可能な国内特許の検索データベースといえば「PATOLIS」のみでした。PATOLIS・ⅡからPATOLIS・Ⅲへと移行した時期でもあり、日本語力

ナ文字検索が可能になったことが出現し、普及していくことで、私が住んでいる、岐阜という地方であっても、データベースによる特許調査が可能になってきました。データベース検索調査というとオンラインのみで業務が完結すると思われるのですが、当時はデータベース検索を行い、作成した検索集合の図面十抄録付きのオフラインリストを東京のホストサーバーで印刷し、印刷された紙のリストを郵送で取り寄せていました。さらに、届いたオフラインリストを手捲りで査読し、関係がありそうな公報の原本コピーを取り寄せ、入手した公報を精査するといった作業の流れでありました。地方在住者であったがために、データベース検索にしか頼ることができなかったため、結果として検索式の立案スキルを高められたのかもしれない。

その後は、インターネットが出現し、普及していくことで、特許調査の環境も激変していきました。IBM Patent Server という米国特許の無料の検索サービスが出現したり、特許出願が電子化されて蓄積された成果物でもある、Japani o分散処理型検索システムが提供され始めたりしました。現在では、PATOLISによる1社独占の時代は終わり、複数の特許データベース事業者より検索サービスの提供が行われ、本来あるべき競争の市場原理が導入されています。

ツールや環境が大きく変わっても、特許サーチャーの仕事の本質は、特許情報を検索して読み込むことであると思います。特に大切なのは、「特許公報を読み解く力」ではないでしょうか。特許公報の内容は、「従来存在した課題について、このような工夫をして解決しました。」というものです。特許を読み解くというのは「課題」と「解決手段」を把握することに尽き、「特許公報を読み解く力」を向上させるには、次々と現れる新しい技術に対して常に興味を持つことだと思っています。新商品のプレスリリースを詳細に見ていると、今回の新製品のコンセプトが何で、それをどのように実現しているのかということが分かり易く説明されていたりします。自身の特許調査でかわる分野の新商品が発表された際には、ただ漠然と新商品が出たと見ているのではなく、最新技術が何で、それをどのようなメカニズムで実現しているのか？詳細を知ることが、技術を読み解く力となり、さらに「特許公報を読み解く力」の強化につながると日々感じています。

○松尾健司 株式会社IP調査塾 代表・特許情報活用コンサルタント
東京農工大学卒業後、自動車部品の設計開発技術者、大手特許事務所を経て2019年IP調査塾を設立。特許情報活用に関する研修、人材育成、コンサルティングを手掛ける。

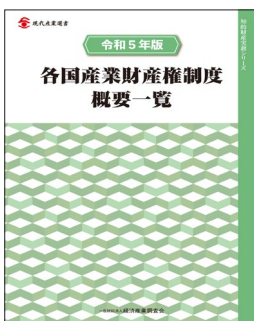
オンラインセミナー

情報

○9月21日(木) 14:00
「2023特許・情報フェア & コンファレンス フィールドバックセミナー」
＊毎月様々なテーマで開催中！当社ホームページからお申し込みください。

新刊紹介

【令和5年版 各国産業財産権制度概要一覧】
各国又は地域の産業財産権に関する制度について調査を行い、その概要等を見易く紹介。外国特許実務者の座右の書。編集・発行 経済産業調査会 価格 3520円(税込)



ための、特許法や民法、民事訴訟法の知識に肉付けを与える判決例の知識が手に入る必読書。

著者 山内康伸／山内伸
発行 経済産業調査会
価格 5720円(税込)



【専門サービス組織(PSF)の成長メカニズム―「分業構造」の視点からのアプローチ】
顧客とサービス範囲の拡張がどのように法律事務所、会計事務所、特許事務所、経営コンサルタントといったサービス組織の成長率に影響するかを、日本の大規模な特許事務所を対象に分析。

著者 中本龍市
発行 白桃書房
価格 2750円(税込)



御食国から物申す 馬場 淳子

第18回 調査の背景



この夏、メディアは連日「今年は例年にならない猛暑、不要不急の外出はしない、まめに水分補給しましょう」と注意喚起を報じていました。八月上旬、猛暑日がつづく小浜市で、朝夕に赤とんぼの集団が現れます。早くも虫たちは季節の変化を感じ取っているのでしょうか。

「増加する空き家」は、少子高齢化で人口減少の進む日本、どこの地域も抱えている問題です。小浜旧市街地も人が住まない町家が増え、いた

つの間にか取り壊され更地や駐車場となるところもあります。昔ながらの町並の景観が崩れる危機感から行政は、「空き家を利活用したまちづくり」をテーマに、さまざまなイベントやコンテスト・地域全体のビジョン・地域内の小エリアごとの役割



この提案を受けた市民は「おおすごい！この提案の通りやってみよう！」となれば、最高の結果なのですが、なかなかそうもいきません。そもそも「地域全体のビジョン」はその地域に住む市民の総意でないといけませんし、「小エリアごとの役割」

と言われても、対象地域の市民が、その役割に関わる事業に従事していなければ、他人事となってしまう。たとえ、まちづくり専門家であったとしても、実際にその地域で何年も生活してみないとわからないことがたくさんあると思います。

特許調査も、ものづくりの現場を知らないことと同じです。サーチャーが、特許調査するすべての開発の現場に、立ち会うことは現実的ではありません。それを補う意味でもサーチャーの事前

まちづくりの提案作成手順は以下になります。

- ①現在の地図を用い、地域の用途を確認
- ②道路、水路、河川など地域の骨格を確認
- ③古地図を使い、地域の変遷（道の位置、河川の位置、用途の変化）を確認
- ④エリアごとの特徴の洗い出し、空き家位置の把握
- ⑤地域の公共交通・車・人の動線を確認
- ⑥人口規模や似たような環境の他地域のまちづくり、参考事例の確認

上記①～⑥を踏まえて、

- ・地域全体のビジョン
- ・地域内の小エリアごとの役割

準備とインタビューが重要となります。

まちづくりの提案作成手順

- ①～⑥を特許調査に置き換え
- ①実施例、用途
- ②構造、図面
- ③従来技術、背景技術
- ④課題を解決するために必要な構成要素
- ⑤課題を解決するための動線
- ⑥先行技術文献

特許調査を依頼する場合、調査の目的と背中合わせに「調査の背景」があります。

『新技術に絶対的な排他権を持たせたい』『市場は進んでいる、自社の遅れを幹部に認識させたい』『これから伸びる市場なので、今後の開発に力を入れる必要があることを示したい』

依頼者の立場、依頼者の意向、依頼者の狙い、というように、それぞれにいろいろとあるのです。調査の背景、ぜひともインタビュー時に確認してくださいね。

特許調査の際、①～⑥を「提案」と置き換えるとともに、確認したい項目はありますか。（私はその専門ではありませんが…汗）

特許調査の際、①～⑥を「提案」と置き換えるとともに、確認したい項目はありますか。（私はその専門ではありませんが…汗）

・発明の実物を確認（現場を知る）

・発明に対する想い、現場

【写真】○白鳥海岸…小浜旧市街地にある白鳥海岸。久須夜ヶ岳の上に夕焼雲がかりました。○町家リノベツアー…小浜西組重要伝統的建造物群保存地区、リノベーションした町家の見学会の様子。

“わかっているつもり”は危険！
百聞は一見に如かず！

防災体験レポート in 立川防災館

立川都民防災教育センター（以下、立川防災館）に伺いました。

立川防災館までは、JR立川駅で多摩モノレールに乗換え、「高松駅」で下車、徒歩15分ほどで到着。暑さや寒さの厳しい時期はバスの利用が良さそうですが（苦笑）、取材当日はセミの鳴き声を浴びながら、豊かな緑の中を気持ち良く歩くことができました。

防災館の中に入ると、早速「子ども防災体験広場」がお出迎え。お子様向けのサバイバルクイズや、実際に身体を動かして防災時の行動を学べるコーナーなどが並んでいて、まさに立川防災館のコンセプトである「楽しみながら体験を通して防災を知る」が表されていました。こちらの広場以外に立川防災館に設置されている7つの防

神奈川県、東京都を中心に隣接する茨城県、千葉県から静岡県までの内陸と沿岸に及ぶ広範囲へ、明治以降日本最大規模の甚大な被害をもたらした関東大震災は1923年9月1日に発生しました。これにちなみ、9月1日は「防災の日」として定められています。また、今年2023年は関東大震災から100年と、改めて防災の大切さを認識すべく、東京都立川市にあります、東京消防庁



まず、私たちが案内いただいたのは「地震体験室」です。部屋を模したブースに入り、体験スタート。すぐに揺れで立ってられない状態になり、事前にインストールしたの方に教えていただいた通り、机の下に潜り込みます。その間、どんどん揺れは大きくなり続け、机の脚を全力で掴まなければその場に居られません。設置されている家具が倒れてきて、火にかけ

ます。煙については吸ってしまつたらいけない、危険なもの、という知識でしたが、驚いたのはそのスピード。垂直方向への移動は、1秒間に3〜5mと、人が逃げるよりも速いそうです。煙で充満した体験室内は、火事の起きた視界の悪い建物が再現されています。壁伝いに避難を試みますが、煙を吸わないよう身をかがめて移動するのも、タオルを口にあてている息苦しさも、前が見えない状況も、想像以上に大変で、「わー！」と走り抜けたくなつてしまいます。自分が窮地に追い込まれた際の心情を事前に知っておくことも、いざという時の冷静な行動に繋げられるのだと思いました。

「消火コーナー」（写真・下）では、大型スクリーンに映し出された火を消火します。火が上がっているのを確認したら、まず周囲に知らせるため大きな声で「火事だー！」と叫びます。モニターに音量が表示されるのですが、なかなか合格ラインに届きません。大きな声を出すのも一苦労です。次は、消火薬剤の代わりに水が入れられている模擬消



火器を準備。消火器は身近にあるから〜と思つていましたが、安全ピンの抜き方もレバーの握り方もあいまい…。防災における、分かっているものの怖さを目の当たりにしました。消火は火の根本をほうきで掃くように！皆様もぜひ覚えておいてください。最後の「VR防災体験コーナー」では、VRゴーグルをお借りして地震と風水害の疑似体験をさせていただきました。その臨場感はさすが、VR。特に風水害メニユーは、大型台風が上陸するというニュースを受けて「まあ、今回も大丈夫でしょう」とのんきに構えている方、必見です。その他にも立川防災館では、災害への備えや助け合いの大切さを映像を通して知ることができる「防災ミニシアター」、リアルなセットで要救助者の捜索から救助までを行える「救出救助コーナー」、心臓マッサージやAEDの使い方を訓練用の人形で学べる「応急救護訓練室」等、様々なシチュエーションにおける防災体験を、バリエーション豊かにすることが可能です。災害がいつやって来るのか、どれくらいの規模なのか、残念ながら誰にもわかりませんが、本当は来ないでほしい「その日」が来てしまつたら、どれだけ被害を少なくできるのかは、日頃の私たちの意識で変えられるものなのだと思いの取材で感じました。何かのタイミングで抱いた「気をつけよう」という思いは、どうしても日々の生活の中でだんだんと薄れてしまいがちです。そんな時はぜひ、立川防災館を訪れて、気を引き締めてみませんか？

最後になりましたが、立川防災館の皆様には閉館日にも関わらず、ご丁寧に案内いただき誠にありがとうございました。